

## 水の特別賞

水が生みだした物

浦和実業学園中学校 一年 岡本 朋己

水とは空気と同じくらい身の回りにあり、当然あるもので意識しない存在だった。水を毎日見たり、使ったりしていたのだが、はつきり言って、水を大切にするといい気持ちにはほとんどなかった。

そんな私だったが、歴史の勉強をはじめると水について大きな衝撃を受けた。稲作が始まった弥生時代。稲作には当然、水が必要。ところが水を得られる場所は限られている。私たちの祖先は生きるために水を求めて、争いをしていったのだ。

平安時代になると、都では水を安定的に手に入れることができ、貴族たちは庭に池を作り、水を愛でるようになる。こころにいやしを与える存在となった。

また江戸幕府が開かれた以降の江戸の町は爆発的に人口が増えたため、生活のための水が大量に必要となった。そこで神田上水や玉川上水をつくる大きな工事が行われ、水道の設備がどんどん町中に広がっていった。

驚くべきことに、江戸の水道のシステムは当時のロンドンをしのぐ世界最高のものだったそうだ。それで人々の暮らしが安定した。江戸幕府が二六〇年あまり続いたのは、水のおかげもあったかもしれない。

さらに明治時代以降では、多くの水を利用し様々な製品が生まれて産業が発達、現代の豊かな日本を作り出した。

水は歴史や文化を生んできたと言ってもいいだろう。

私の住んでいる東京では、小学生にもわかるように「水道キャラバン」という授業が行われている。そこで東京の水道はどのようにして家に送られているのかを学ぶことができた。家に届くまで様々なシステムを経て水をきれいに行っている。飲んでも全く害がないレベルにするには、とても大きなお金が使われていると知ることができた。

この授業と「水道検定」というテストを受けたことで、実は東京はスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで売っているミネラルウォーターに負けない「おいしい水」を、供給している事実を知った。そういう学びが重なり、蛇口からおいしい水が飲めることに感謝できるようになった。それがきっかけで、水道検定二級に合格できたこともうれしかった。

水に関して日本は本当に恵まれている。その一方で、世界には水で苦しんでいる人々がたくさんいる。ユニセフの調べによると二〇一七年時点、世界では二十二億人が安全に管理された飲み水を使用できず、このうち一億四千四百万人は、湖や河川、用水路などの未処理の水を使用しているそうだ。

例えばアフリカ諸国では安全な水が供給されず、多くの人が病気になったり、亡くなったりしている。また子供は、長い距離を歩いて水をくみに行っている。水の取り合いで戦いも起きているそうだ。とても悲しい。

水に何の興味を持たずに使っていた私だが、人間が長い時間と向き合ってきたことを、歴史や社会の勉強で知った。世界の人々が水で苦しまないようにするには、私たちは何をすべきなのかだろうか、どんな技術があるのだろうか。理科をはじめ、これからも多くの知識を得ることで、水と真ん中に向き合ってきた。